

第126号

ちむ美らさ

発行: 北部農林水産振興センター
農業改良普及課
住所: 沖縄県名護市大南1-13-11
電話: 0980-52-2752
FAX: 0980-51-1013

1P・新農業士認定式 4P・伊平屋村タマネギ
2,5P・北部農業士会紹介 病害虫対策
3P・伊是名村の産地情報 6P・サツマイモ基腐病

令和7年度 ~北部地区から3名の新たな農業士誕生~

沖縄県青年農業士・指導農業士・女性農業士認定式



9月3日に沖縄県庁4階講堂にて令和7年度沖縄県青年農業士・指導農業士及び女性農業士認定式が開催されました。北部から新たな3名の農業士が認定され、また長年農業士として活躍されました3名の指導農業士の方々が、名誉と位置づけ感謝状が授与されました。

指導農業士

具志堅 興児 氏



(国頭村：施設・露地野菜)

国頭村農業青年会議会長を務め、組織活動の活性化に尽力され、また農業大学校や新規就農講座等の講師を受け持ち、地域担い手育成支援に積極的です。さらに、地域農産物の消費拡大に向けたPR活動を積極的に行っており、地域農業者の牽引役として今後も活躍が期待されています。

名誉指導農業士

東 一幸 氏



(伊平屋村：肉用牛)

伊平屋村肉用牛生産組合の会長として部会員を牽引し、伊平屋村の畜産振興に貢献されており、長年、地域農業の相談役として、地域農業者の育成や地域振興に尽力される。また北部農業士会役員を務め、組織活動の活性化を図り、組織強化に貢献されました。

名誉指導農業士

西平賀盛 氏



(本部町：肉用牛)

長年地域の肉用牛振興に携わり、JAやんばる和牛改良組合長、JAおきなわ本部支店運営委員を歴任され、北部地域の肉用牛の相談役として、担い手の育成など地域農業振興に貢献され、また北部農業士会活動にも、積極的に参加され、担い手育成支援活動に尽力されてきました。

青年農業士

比嘉 太嗣 氏



(名護市：施設野菜)

北部青年農業者会の会長を務め、組織のリーダーとして活動を牽引してきました。

先進技術導入農家として農業大学校視察や新規就農研修受入支援に協力され、担い手育成に貢献される。周囲からの信頼も厚く、地域の模範農家として今後の活躍が期待されています。

名誉指導農業士

高良 久 氏



(本部町：柑橘・パイン)

JAおきなわ本部支店運営委員長、もとぶかりゆし市場生産者の会会長、本部町農業委員を歴任し、地域担い手支援および農業振興に貢献されました。

また北部農業士会活動にも、積極的に参加され、組織活性化に尽力されてきました。



バックナンバーは右のQRコードでご覧になります。

伊是名村の産地情報

さとうきび



伊是名村においてさとうきび農家は194戸と最も生産者が多い品目です。

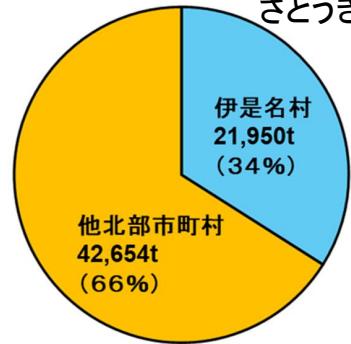
R6/7年期の単収は5.8t/10aと北部地区平均(5.0t/10a)に比べて高く、機械収穫率も約87%と進んでいます。

品種構成はNi29が約49%と最も多く、次いでNi27が約22%、NiH25が約4%となっています。

伊是名村では、イネヨトウやカンシャシンクイハマキの発生が続いているため、共同防除を実施し被害の蔓延を防いでいます。

今期の伊是名村は降水量が少なく、特に8月6日以降(10月9日時点)の降水量の合計が40mm(過去5年平均373.9mm)と近年の中でもかなり少なくなっておりロール現象が多くみられます。

グラフ: R6/7北部地域におけるさとうきび生産量



▲ロール現象(Ni29)

水 稲



伊是名村では、1期作で「ひとめぼれ」を、2期作で「北陸193号」を栽培しています。

今期の1期作は7月中旬には収穫が終わり、収穫量は約182tでした。収穫された「ひとめぼれ」は「尚円の里」という商品名で村内外で販売されています。また、村内の祭りの「ウンナー」で利用される大綱は収穫後の稻わらで作られています。

2期作で栽培している「北陸193号」は主食用ではなく泡盛原料用として栽培されており、収穫後は村内外の酒造所で加工され販売されます。

栽培面積は1期作で45ha、2期作で21haで共に前年並みでした。



▲ひとめぼれ収穫風景



▲共同育苗風景

伊平屋村のタマネギ病害虫対策

伊平屋村のタマネギ生産では、軟腐病やべと病の相談が寄せられています。これらの病気の特徴と対策について紹介します。

(担当: 伊平屋村駐在 譜久嶺)



軟腐病 ~特徴と対策~

りん茎（球）の肥大が始まる頃から発生し、葉鞘（葉の基部）が灰白～淡黄色にかわり、葉が倒れます。悪臭が出来るようになります。**貯蔵中や輸送中にも発生します。**

多湿時に多く発生し、雨で広がってしまいます。強風や農作業時の傷、アザミウマなどの害虫跡から侵入して発生するため、**軟腐病初期防除とアザミウマ防除**が大切です！収穫は晴天時に行い、十分に乾燥させましょう。

また、**強風雨の前後に薬剤予防散布**を行い、株元までかかるように丁寧に散布しましょう。



軟腐病

べと病 ~特徴と対策~

かびの一種により引き起こされる病気です。りん茎（球）が肥大し始める頃から収穫期にかけて特にかかりやすく、葉が湾曲し、色あせて黄色になっていくのが特徴です。

対策として、**排水対策**を行うこと、**感染前の薬剤予防散布**が挙げられます。また、タマネギは農薬が付着しにくいので、**展着剤**を使用すると効果が上がります。



べと病

べと病・軟腐病 登録農薬

病害	農薬名	希釀倍数	使用量	使用法	使用時期	使用回数	総使用回数
べと病	アミスター20 フロアブル	2,000倍	100~300L/10a	散布	収穫前日 まで	4回以内	4回以内
	ジマンダイセン水 和剤	400~600倍	100~300L/10a	散布	収穫3日 前まで	5回以内	5回以内
	ハチハチ乳剤	1,000倍	100~300L/10a	散布	収穫前日 まで	2回以内	2回以内
	リドミルゴールド MZ	500~1,000倍	100~300L/10a	散布	収穫7日 前まで	3回以内	5回以内
軟腐病	カスミンボルドー	1,000倍	100~300L/10a	散布	収穫7日 前まで	5回以内	5回以内
	コサイド3000	1,000~2,000倍	100~300L/10a	散布	—	—	—
	スターナ水和剤	1,000倍	100~300L/10a	散布	収穫7日 前まで	5回以内	5回以内



上記以外にもべと病・軟腐病に対する登録農薬があります。

農薬を使用する際には、使用時に農薬ラベルを確認してください。または、最寄りの普及担当者や農薬メーカーまでご連絡ください。

サツマイモ基腐病について

基腐病がまん延すると収穫量が激減します。北部地域でも発生が確認されています。症状を発見したときの対策や薬剤防除方法について紹介します。

(担当: 與座)

12月～2月頃の主な対策

- できるだけ早期の収穫を行い、収穫後に耕うんを複数回行って、収穫残渣の分解を促進して野良イモの防除をしましょう。野良イモは、長期間圃場で生育することで、基腐病菌の伝染源となります。
 - 夏・秋植え圃場では感染株の抜き取りをおこないましょう。発病株を残しておくと、大量の胞子が形成され、周辺株へ感染し、蔓延の原因となります。また、農薬散布（茎葉処理）で、正常株の感染防止や発病抑制が期待できます。詳しくは表紙右上記載の連絡先までお問い合わせ下さい。

主な症状



葉の黄変／茎の基部の黒変



地上部の枯れ上がり



芋の腐敗

薬剤防除体系

- 多発生ほ場では土壤処理、苗消毒、茎葉散布の3つの方法を組み合わせた防除体系を実施しましょう。

推奨防除体系

植付け前	植付け当日	植付け 2 週間後	5 週間後	台風前
フリントフロアブル (動噴) 全面土壌混和	ベンレート水和剤 苗浸漬	フロンサイドSC (動噴) 茎葉散布	フロンサイドSC (動噴) 茎葉散布	ICボルドー (動噴) 茎葉散布

苗消毒のやり方

- バケツ等に適量の水を入れ、薬液を作成しましょう（ベンレート水和剤500倍）
 - 採苗したつる苗は束にして、薬液に苗全体を30分間浸漬しましょう。
 - 浸漬後は風乾しましょう。
 - 薬液は当日の交換は不要ですが、一日で使い切ってください。
(翌日新たに作成する)
 - 使用済みの薬液は側溝や河川等には捨てず、
水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

